

平成16年3月期中間期決算関連 Q&A概要

【計測器事業に関するQ&A】

Q1: FOMA向け製品の現状と、今後の展開について

A1: FOMA向け一体型テストは、上期から好調を維持しており、今後も見込めるため、携帯電話用計測器の売上予算の押し上げを期待しています。なお、FOMAについては、開発・製造・保守・インフラの用途にわたってすでに対応済みであり、いつでもソリューションを提供できる状況にあります。

Q2: 今後どのようにIPテスト関連事業を展開させてゆくのか？

A2: IPテストは、開発の迅速化・効率化の観点からレイヤ4以上は提携先のアプリケーションを採用し、2-3の物理レイヤについては自社でアプリケーションの開発を進めています。また、移動体通信の交換網の分野でも、オペレーター（キャリア）とベンダー（基地局メーカー）の両面から対応を進め、用途分野の拡張を図ってゆく方針です。

Q3: 上半期に低調だった光デジタルと汎用計測器の今後をどうみるか？

A3: 光デジタル用計測器については、40Gbit伝送用計測器は、主に大学等の基礎研究用として一定の受注案件を確保していますが、他の製品の需要は依然として低調です。汎用計測器については、今期は米国の防衛・航空宇宙産業用途の伸びに期待しています。

Q4: 新しい一体型テストは中国のPHS市場に対応しているのか？

A4: 従来は旧製品の一体型テスト（MT8801）で対応していましたが、測定リードタイムを大幅に短縮でき、かつPHS以外の方式にも対応できる新しい一体型テスト（MT8820）の販促を進め、積極的に拡大を図ります。

【計測器以外の事業に関するQ&A】

Q5: デバイス事業の今後の事業展開と収益見通しはどうか？

A5: デバイス事業は、技術競争力があり、また、計測器のキーデバイスでもあるので、コア技術として維持してゆきます。分社化により固定費の削減などスリム化を図り、2005年度の営業黒字化を目指します。また、通信以外の分野へも事業の拡大を図ります。

【財務に関するQ&A】

Q6: 営業外の棚卸評価損の計上基準と今後の見通しについて

A6: 当社では滞留が10ヵ月を超えた仕掛品（半完成品）について、個別に今後の事業展開や売上見込みを精査したうえで計上額を判断しています。なお、下期は、上期と同水準の評価損を見込んでいます。